

## 県営金亀公園（（仮称）彦根総合運動公園）整備事業について

### 1 事業の経過・今後の予定

平成 27 年 12 月	公園整備基本設計に着手
平成 28 年 2 月～7 月	（仮称）彦根総合運動公園第 1 種陸上競技場建築検討懇話会の開催 （計 3 回実施）
9 月	公園整備基本設計の取りまとめ
平成 29 年 3 月	公園整備実施設計に着手
12 月	第 1 種陸上競技場建築基本設計に着手
平成 30 年 3 月上旬	第 1 種陸上競技場建築基本設計の取りまとめ
3 月下旬	第 1 種陸上競技場建築実施設計に着手
平成 30 年度	公園整備実施設計の取りまとめ
平成 31 年度	公園整備工事に着手
	第 1 種陸上競技場建築実施設計の取りまとめ
	第 1 種陸上競技場建設工事に着手

### 2 第 1 種陸上競技場建築基本設計の検討状況の概要（別添資料参照）

#### （1）基本設計のコンセプト

- ①コンパクトな競技場
- ②歴史、景観に配慮した競技場
- ③周囲を自由に回遊できる競技場
- ④環境負荷の縮減を図る競技場
- ⑤安全で安心な競技場

#### （2）概要

項目	構造	階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	収容人員(人)	備考
メインスタンド	RC 造 一部 S 造	5	約 13,000	約 7,000 (個席)	うち、車椅子スペース 約 50 人分
バックスタンド	RC 造 一部 S 造	2	約 5,300	約 2,200 (階段状席)	うち、車椅子スペース 約 30 人分
サイドスタンド	RC 造	1	約 3,200	約 5,800 (芝生席)	北側：2,900 人 南側：2,900 人
合計			約 21,500	約 15,000	

※ RC 造：鉄筋コンクリート造、S 造：鉄骨造

### 3 公園整備実施設計の検討状況の概要

#### （1）公園整備実施設計の状況

公園整備実施設計では公園整備基本設計の方向性を踏襲し、上記 2 の基本設計と並行して工事実施に向けた詳細な設計を進めている。

#### （2）公園施設の配置概要

- ①園路および広場：園路（約 3 km）、エントランス広場・緑の広場・スタジアム前広場（約 2ha）
- ②修景施設：中高木（約 1,100 本）
- ③休憩施設：四阿（3 基）、ベンチ（16 基）
- ④運動施設：第 1 種陸上競技場（400m×9 レーン、全天候舗装）、第 3 種陸上競技場（400m×8 レーン、全天候舗装）、庭球場（12 面）、野球場（存置）
- ⑤便益施設：駐車場（約 1,100 台）、便所（3 ヶ所）

【施設配置図】



【公園整備スケジュール】

項目 \ 年度	平成26年度 (10年前)	平成27年度 (9年前)	平成28年度 (8年前)	平成29年度 (7年前)	平成30年度 (6年前)	平成31年度 (5年前)	平成32年度 (4年前)	平成33年度 (3年前)	平成34年度 (2年前)	平成35年度 (1年前)	平成36年度 (開催年)	平成37年度 (1年後)
都市公園設計計画 (基本構想・基本計画)		基本設計	実施設計									
(公園設計)	基本構想・基本計画											
既存施設解体 (スポーツ会館、プール、庭球場、 陸上競技場、その他工作物等)												
公園等整備 (基盤工事、地盤対策工事)												
(第3種陸上競技場)												
(緑の広場、エントランス広場、 交流広場、第1種外構など)												
(庭球場)												
建築施設設計画設計 (第1種陸上競技場)		基本設計条件検討	基本設計	実施設計								
建築施設工事 (第1種陸上競技場)												
										供用開始 ↓ リハール大会開催	第24回 第79回 全国障害者スポーツ大会開催 国民体育大会開催	

【公園整備基本設計での工事概算額】

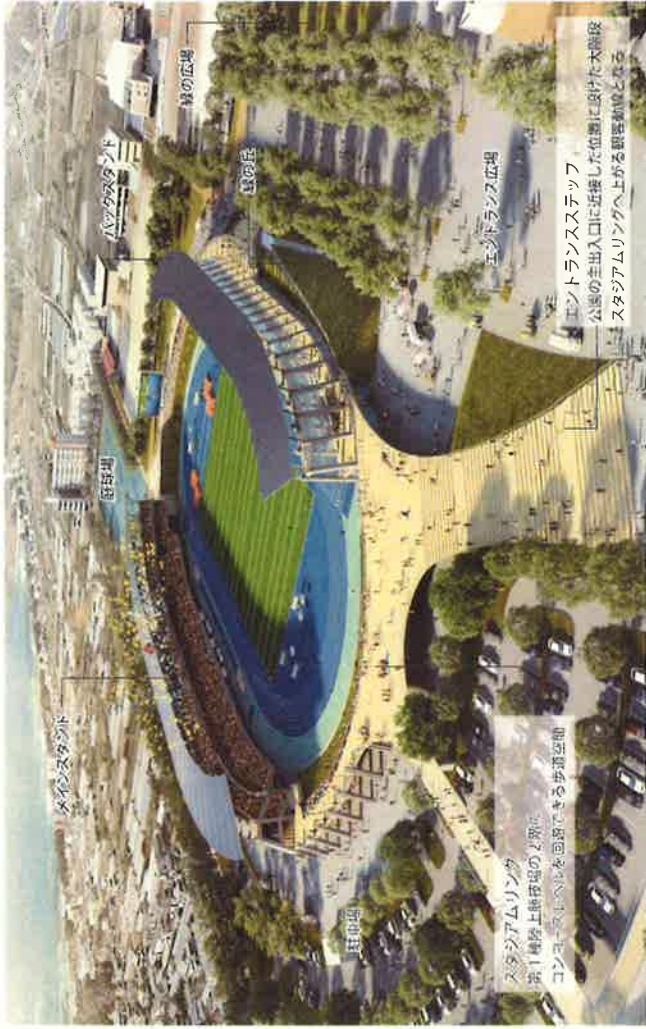
内訳 第1種陸上競技場整備費 200億円程度  
 その他公園整備費、用地補償費等 106億円程度  
 94億円程度



## 滋賀の歴史文化を継承し、親しみをもてる交流の架け橋となる競技場

平成36年(2024年)に開催する国体および全国障害者スポーツ大会の主会場(開・閉会式と陸上競技の会場)として、滋賀県立彦根総合運動場を第1種陸上競技場を備えた公園に再整備するため、平成28年9月に(仮称)彦根総合運動公園整備基本設計を策定した。

第1種陸上競技場について、各種設計条件との整合を図りつつ、彦根城の世界遺産登録に向けた取組や防災機能の強化等に配慮しながら、建物の形状や施設構成など、骨格となる建築基本設計を取りまとめた。



### 1.コンパクトな競技場

- ①メインスタンドの観客席を2層構成とすることにより建物の幅を縮小
- ②メインスタンドに架設する屋根の範囲を縮小
- ③観客席を上下2段に分けることにより、客席がフィールドに近づき臨場感の高い観戦が可能
- ④西側住宅地からの距離を離し、樹木を植栽して圧迫感を低減
- ⑤競技場周辺に余裕を生み出し、公園空間を拡大



### コンパクト



西側住宅地から：建物のコンパクト化により周囲の緑地空間の確保

### 2.歴史、景観に配慮した競技場

- ①伝統的な真壁造や下見板張り風のデザインを採用
- ②城下町の景観と調和した、落ち着いた色調を採用
- ③かつての松原内湖にあった百間橋をモチーフにし、連続で楕円形状に構成する柱と梁を採用
- ④内装仕上げ材等に県産木材を利用
- ⑤照明を自立させないよう、屋根先端下部に照明設備を設置(照明柱を設置しない)



### 櫓(やぐら)



エントランス広場から「公園と第1種陸上競技場をつなぐ「櫓の丘」と「大階段」

### 3.周囲を自由に回遊できる競技場

- ①2階レベルに回遊できる歩道空間(スタジアムリング)を設置
- ②4カ所の屋外階段とスロープを設け、スタジアム内外のアクセスを向上
- ③スタジアムリングは公園内の各施設を円滑につなぎ、連絡橋により彦根城等との動線確保
- ④スタジアムリングにより、各スタンドに段差なく行けるようバリアフリーに配慮



### つなぐ



敷地北側から「スタジアムリングを中心に園路を自由に回遊できる競技場」



(仮称) 彦根総合運動公園 第1種陸上競技場建築基本設計の概要

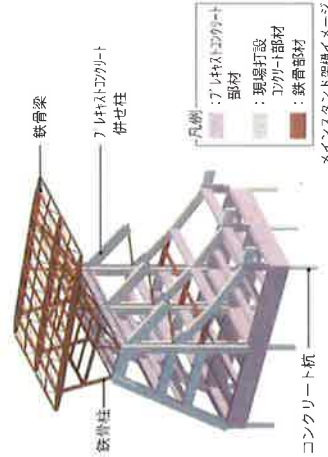
4. 環境負荷の削減を図る競技場

- ① 遮光・防音壁により近隣への住環境負荷（光漏れ、音漏れ）を低減
- ② 観客席、フィールド用のスピーカーを分散配置することにより、周囲への音漏れを低減
- ③ 屋根の雨水を集水しフィールドの芝生散水に活用
- ④ 風の流れを考慮した自然換気を採用
- ⑤ 競技用照明を含め、すべての照明にLED器具を用い省エネを図る
- ⑥ 工事残土は緑の丘の盛土に活用し、場外搬出を削減

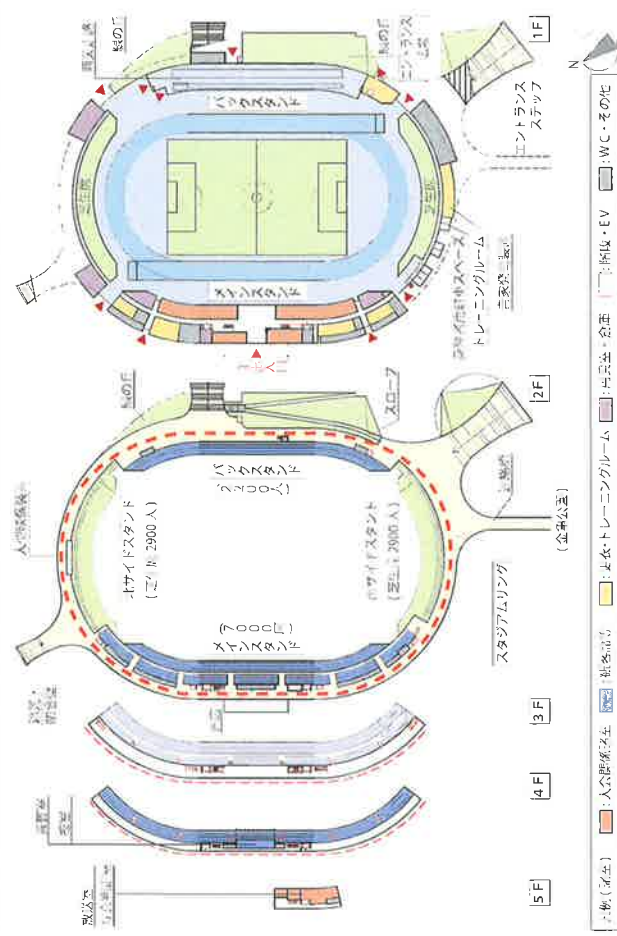


5. 安全で安心な競技場

- ① 地震発生時に防災拠点として機能できるように必要な耐震性を確保
- ② 桁は安全性とコストバランスを考慮し、コンクリート桁とする
- ③ 災害時の緊急輸送機能や避難施設としての機能を確保
- ④ 万が一の災害に備え、自家発電装置を設置
- ⑤ フィールドは災害時にヘリポートとして利用可能
- ⑥ 発災時には雨水をトイレ洗浄水等に活用



各階平面・断面・立面イメージ



イメージパース



これらの図およびイメージは基本設計時点のものであり、この後に行う実施設計で変更になる場合がある。